

令和6年度
瑞浪市デジタル田園都市国家構想総合戦略
評価意見書

令和6年11月

瑞浪市デジタル田園都市国家構想総合戦略推進会議

1. 位置づけ

当会議は、瑞浪市デジタル田園都市国家構想総合戦略推進会議要綱に基づいて開催される会議である。当会議は「産官学金労言士」(※1)及び公募市民によって構成されている。瑞浪市デジタル田園都市国家構想総合戦略(以下「総合戦略」という。)の進捗状況に関しては、担当課において1次評価を行い、その後、当会議において外部の視点から2次評価を行うこととなっており、今年度は総合戦略の9年目(令和5年度)の事業について意見をとりまとめ、瑞浪市に対して意見書を提出する。

※1:「産」は産業界、「官」は行政機関、「学」は教育機関、「金」は金融機関、「労」は労働団体、「言」はメディア、「士」は士業を指している。

2. 評価の範囲

2次評価は、次のとおり16事業を対象とした。

- | | |
|--------------------|------------------|
| ①子育て世代等移住促進奨励金交付事業 | ②清流の国ぎふ移住支援金交付事業 |
| ③お試し移住体験事業 | ④林業就業移住支援事業 |
| ⑤地場産品ブラッシュアップ | ⑥域学連携推進事業 |
| ⑦業務効率化事業 | ⑧市制70周年記念事業 |
| ⑨観光コンテンツ造成事業 | ⑩ゴルフの町みずなみPR事業 |
| ⑪東濃圏広域観光PR事業 | ⑫瑞浪駅周辺再開発事業 |
| ⑬道の駅整備事業 | ⑭水道老朽施設更新事業 |
| ⑮東濃地域医師確保奨学基金負担事業 | ⑯自治会加入促進事業 |

3. 評価手法

事業の評価手法は、事業概要、KPI(重要業績評価指標)、実績値等を記載したシートに、事業効果、事業評価、今後の方針等を下記の区分によって評価した。2次評価については、各事業担当課が行った1次評価の記載された事業評価シート等の資料を基に、担当課から、事業概要、投入コスト、実施状況、問題・課題、具体的改善内容やKPI(重要業績評価指標)に対する実績値などについての説明を受けた後、各参加者からの質疑応答を行い、各参加者の判断により評価を行った。今年度は3回の会議により、各参加者の評価をとりまとめ、総合戦略推進会議としての意見を集約した。

事業効果	A：地方創生に非常に効果的であった (目標値を達成するなど、大いに成果が得られた場合)
	B：地方創生に相当程度効果があった (目標値を相当程度(7割～8割)達成した場合)
	C：地方創生に効果があった (実績値は芳しくないが、事業開始前よりも前進・改善した場合)
	D：地方創生に効果がなかった (実績値が事業開始前よりも悪化した場合)
事業評価	◎：事業が総合戦略のKPI達成に有効であった
	○：事業が総合戦略のKPI達成に有効とは言えなかった
今後の方針	事業が効果的であったことから、取組の追加等さらに発展させる
	事業内容の <u>見直し(改善)</u> を行う
	事業を <u>中止</u> する
	特に見直しをせず <u>継続</u> する
	当初の予定どおり事業を <u>終了</u> する

4. 総評

令和6年度瑞浪市デジタル田園都市国家構想総合戦略推進会議は、令和6年9月2日、9月26日及び10月29日に開催した。

9名の参加者による効果検証を行った結果は、事業効果(4段階)では、「地方創生に非常に効果的であった」が31.6%、「地方創生に相当程度効果があった」が9.6%、「地方創生に効果があった」が15.4%、「地方創生に効果がなかった」が43.4%であった。また、事業評価(2段階)では、「総合戦略のKPI達成に有効であった」が80.9%、「総合戦略のKPI達成に有効とは言えなかった」が19.1%であった。このことから、総合戦略に位置づけた事業(令和5年度)は、効果検証から見直しが必要なものもあるが、人口減少の克服、地域活性化に資する事業であると認められる。

各参加者からは、それぞれの事業に対して多くの意見が出され、いずれも地方創生の実現に向けたものであり、目指すべき将来の方向性に対する具体策等の提案であったため、今後の参考にされたい。全体として、市民にとって内容がわかりづらい事業が多くあり、地方創生に資する事業を進めているとしても、いかに市民にわかりやすく周知していくかが課題である。

瑞浪市デジタル田園都市国家構想総合戦略は、令和6年度から第7次瑞浪市総合計画基本計画に移行したが、本意見書を各事業の改善発展に役立てるとともに、行政のみならず、外部の力を活用し、地方創生を推進していくことを期待する。

令和6年11月18日

令和6年度瑞浪市デジタル田園都市国家構想総合戦略推進会議参加者

景山 英明
木村 秀明
松井 廉
浅野 崇
堀尾 憲慈
座長 佐伯 さほり
中村 佐記子
藤田 好恵
梅村 やよい

①子育て世代等移住促進奨励金交付事業

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
制度の年間申請件数	60件	27件	令和5年1月2日以降に転入し、住宅(新築・中古)を取得した方で、18歳未満の子どもがいる子育て世帯または配偶者がおり、いずれか一方が40歳未満の世帯(若者夫婦世帯)の方を対象に、30万円を交付します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価 (シティブロ モーション 課)	D	◎	見直し (改善)	引き続き人口減少対策として、移住定住施策を更に強化する必要があるため、移住定住ポータルサイトおよび各種SNS等を有効活用し、継続的に情報発信を図っていく。	
1	D	○	見直し (改善)	1次評価と同様方針。	見直しの例として、年収300万円以下は100万円等インパクトがあっても良いのではないかと思います。
2	D	○	見直し (改善)	市の人口減対策として重要な事業であることは認めるが、事業内容の周知の仕方を改善する必要がある。また、補助費に関しては、他自治体情報を収集分析した上で再検討する必要があると考える。	事業内容に関する周知方法の検討を第一優先として進めるべきである。
3	D	◎	見直し (改善)	目標件数に対して実績数の増加のため、いかに周知していくのか、その方法を再検討してほしい。	不動産会社、住宅メーカーなどへのアナウンスはできているか。特に瑞浪市以外も取り扱う業者と連携を取れば、住宅をもとめる顧客に対して、瑞浪市ならこんな補助金もらえる、と瑞浪市民予備軍にアナウンスしてもらえ、それがあんなら、と考えてくれる客もいるかもしれない。
4	B	◎	継続	KPIを移住者の申請件数としているため、達成率は低位であるが、とても困難な課題に取り組んでおり継続が望ましい。	移住等の人口対策は必須の課題であり真摯に取り組む必要あり。また、奨励金などはデジタルツールを利用し効率化を図る。
5	D	◎	見直し (改善)	移住定住施策としては、方向性は間違っていない。継続的に情報発信をすることが大切である。	年齢条件や、金額等移住定住を考えている方たちにとって何が魅力となるのか、また、金銭面だけでなく一日市長や一日市議会議長など体験を含めたインセンティブ的なメリットを検討してみてもどうか。
6	D	◎	見直し (改善)	情報発信の継続は必要。ただ、近隣地域も同じような課題をもっており、その中で特徴的な施策を出すなど期待したい。	目標指数が高すぎるのではと感じる。
7	D	◎	継続	目標値に達していないが移住してもらうために、継続して情報発信を図る。	この制度が移住を決定する判断材料の一つになるように、子連れスポットや住宅メーカーや展示場、通勤圏の企業へも、暮らしやすい瑞浪の魅力とともにこの事業の情報発信を図る。また、安心して瑞浪市で生活してもらうためにも、耐震基準を満たすことを条件に入れる必要がある。
8	D	◎	継続	予算が確保されているのであれば、継続しても良いと思うが、他の市町村との差別化は難しい。	他の市町村との差別化にはつながらないので単なるお金のばらまきに終わらぬよう工夫がいるのではないかと。
9	C	◎	見直し (改善)	継続的な奨励金の情報発信が必要。	子育て世代の情報ツールであるSNS等を有効活用し、継続的な情報発信が必要。

②清流の国ぎふ移住支援金交付事業

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
制度の年間申請件数	10件	6件	5年以上岐阜県外に在住していた方で、令和4年4月1日以降に瑞浪市に転入し、令和4年4月1日以降の住宅に係る契約により住宅(新築・中古)を取得した39歳以下の複数世帯の方に対して、移住支援金として50万円を交付します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価 (シティブロ モーション 課)	C	◎	見直し (改善)	引き続き人口減少対策として、移住定住施策を更に強化する必要があるため、移住定住ポータルサイトおよび各種SNS等を有効活用し、継続的に情報発信を図っていく。	
1	C	○	見直し (改善)	1次評価と同様方針。	比較的、若年世帯に対し「子育て世代等移住促進奨励金交付事業」同様に年収制限で金額の増額検討、及び広く情報発信の徹底。
2	D	○	見直し (改善)	子育て世代等移住促進奨励金交付事業と同様、市の人口減対策として重要な事業であることは認めるが、事業内容の周知の仕方を改善する必要がある。また、補助費に関しては、他自治体情報を収集分析した上で再検討する必要があると考える。	事業内容のわかりやすい説明、周知方法を優先的に考え、事業を進めるべきである。
3	C	◎	見直し (改善)	目標件数に対して実績数の増加のため、いかに周知していくのか、その方法を再検討してほしい。瑞浪市に転入する方の多くは就業のため、と思えば、市内・近隣市の企業の新入社員へアナウンスできると良い。	私自身もそうであったが、瑞浪市に職場を持ち、名古屋から転入してきた。しかし、最初はマンション・アパートで暮らし、その後住居を新築した。39歳以下という縛り、住居購入というハードルを考えると、なかなか難しいのかと感じる。賃貸物件に対してでも、県外からの移住者に支援ができると良い。(県外から瑞浪市へ移住し、○年経つと補助金が出る、など)
4	B	◎	継続	制度利用の条件が容易ではないため、達成度合いは低位に推移しているが継続していくべき事業である。	人口減少対策の施策については喫緊の課題として取り組み、市の活性化に寄与させるべきである。
5	C	◎	見直し (改善)	移住定住施策としての情報発信はもちろん、わかりやすく粘り強く継続していく。	県との共同事業であるため、制度内容を大きく変更することはできないかも知れないが、この条件プラス、同じ条件に合致する方を紹介していただいた場合、半額の25万円あるいは30万円を支給するなど、自治体ができる範囲内の目いっぱいインセンティブを検討してみたいか。
6	C	◎	見直し (改善)	制度があるのであれば、情報発信を継続していく必要があるが、R4からどのように周知が広まったのか分析し、+αの活動を期待する。	抜け落ちがないために後追いで周知は必要だと思うが、この制度がきっかけである実数を増やしていってほしい。
7	C	◎	継続	目標値に達していないが前年度より増加している。県外の方に移住してもらうために、継続して情報発信を図る。	この制度が移住を決定する判断材料の一つになるように、子連れスポットや住宅メーカーや展示場、通勤圏の企業へも、暮らしやすい瑞浪の魅力とともにこの事業の情報発信を図る。
8	C	◎	見直し (改善)	情報を利用者により多く届ける工夫と継続がより有効活用につながる。	予想以上の利用者があり、有効と判断。
9	C	◎	見直し (改善)	移住定住促進のため、様々な情報ツールを活用し継続的な情報発信が必要である。	県外在住者が対象であることから、近隣市の移住施策条件等を把握しながら、瑞浪の魅力発信と併せ継続して事業を実施していく必要がある。

③お試し移住体験事業

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
移住定住に係る相談件数	65件	110件	「ふるさとワーキングホリデー」を活用し、本市での暮らしを学び、体験することで将来的な移住・定住につなげます。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価 (シティブロ モーション 課)	A	◎	継続	継続的な事業の実施や、過去の参加者へのフォローアップを行うことで、引き続き本市の関係人口の拡大や移住定住の掘り起こしを図る。	
1	A	◎	継続	1次評価と同様方針。	長期インターンも考慮しての期間拡大も良いと思う。
2	A	◎	継続	周知方法の改善、若者にとって魅力的な働く場所(業界・分野等)の開拓が必要であると考え。	事業効果向上に向け、新たな体験場所を検討すべきである。
3	A	◎	継続	実績値の高さを評価。	インターンシップのような感覚で参加者が来ているのか、参加してくれた方へのヒヤリングを強化し、次につなげてもらいたい。また、この事業からどのように「移住」につなげるのかの具体的な方策が必要だと感じる。
4	A	◎	継続	引き続きお試し移住体験を実施し、本市への理解を深めるよう活動する。	事業自体に問題はないが、KPIについては数値基準が判断し難いため、再考が必要。
5	A	◎	継続	目標に対し大幅に実績値が上回っており、引き続き関係人口の拡大・移住定住の掘り起こしについて効果が期待できる。	受入事業者として市役所は確実に加えていただきたい。また、地場産業である陶磁器産業はもちろんのこと、ゴルフ場や瑞浪市独自の産業を継続して参加させていただきたい。
6	A	◎	継続	参加者が魅力発信することで、PRにもつながるため効果が見込める。	東濃エリア以外の県内も受け入れてはどうか。とても良い事業内容と思うが、目標指数が相談件数であれば、どうやって増えているのか、またその内訳が知りたい。
7	A	◎	継続	実績値として相談件数が増加している。瑞浪市の暮らしや魅力を体験して知ってもらい良い機会である。移住定住には時間がかかるため、継続して行い、効果を見ていきたい。	1度の相談で終わらせないような相談技術向上研修などを取り入れ、事業への参加や移住定住につなげてほしい。参加者へのフォローアップ内容を工夫して継続的なつながりを持ち、暮らしやすい瑞浪の情報発信をしてもらえるといい。
8	A	◎	継続	10代～20代へのPRの方法として、とてもおもしろい取組と考える。近い将来の移住者への投資となる事業。	すぐ結果に結びつかずとも、市内の企業を知って、瑞浪市を知り興味をもってもらうのにとってもおもしろい取組。
9	A	◎	継続	参加した若者たちの移住促進に加え、事業参加者がSNS等を通じて瑞浪市の魅力を大いに発信してもらうことで、本市の人口拡大につながることに期待。	参加者(県外在住者)から見る「瑞浪の魅力」等を引き出すことで、瑞浪観光、事業活性化のヒントが得られることもあるのではないか。継続して実施されたい。

④林業就業移住支援事業

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
本事業を活用した 県外からの 年間移住件数	1件	0件	林業における担い手不足解消及び本市への移住促進のため林業就業者に対して支援金を交付します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価 (シテイプロ モーション 課)	D	○	終了	R5年度は予算計上はしていない。移住者の業種が特定されており、交付対象者が非常に限定的であるため、事業自体を廃止予定。	
1	D	○	終了	1次評価と同様方針。	「林業就業者」でのコンセプトのハードルも高く、事前に関係団体等(森林組合)との協議も必要と思う。
2	D	○	終了	事業廃止。	特になし。
3	D	○	終了	担当課の判断の通り。	移住促進の観点からすれば、この事業は担当課の判断通り、業種が特定されていたり難しさを感じ、他の方策へ切り替えるべきかと感じるが、もう一つの林業の担い手不足の問題は市にとって守っていかなければならない問題なのか、瑞浪市での林業は担い手不足により衰退しても大した問題ではないのか、判断がつかない。大きな問題であるならば、林業保護の新たな方策が必要。
4	D	○	終了	事業内容が限定的すぎるため、利用し辛く廃止が望ましい。	林業のみに特化した本事業は、本戦略事業にふさわしいとは言えない。
5	D	○	終了	事業自体を廃止予定。	ただでさえ林業従事者が少ないうえに瑞浪市から勤務地への距離はどうだったのか。あまりに条件が合わなかったのではないか。林業では移住定住の推進には繋がりにくいと思う。他の業種は検討材料として挙がっていたのか。
6	D	○	終了	1次評価で今後の見込みがないのであれば廃止予定に相違なし。	廃止予定とするまでの過程がわからないため評価しにくい。
7	D	○	終了	R4年度以降は実績が無いため、市の事業としては廃止。	相談があった場合は担当課の職員が県の事業の「岐阜県林業就業移住支援事業」を紹介できるようにしておくことが必要。
8	D	○	終了	利用者が連続して無いのであれば、終了いたしかたない。	瑞浪市で林業に就職する人はいるか？しかも東京圏からの移住者に限定していて残念。
9	D	○	終了	対象者は限定的であり実績もないことから事業継続は困難。	林業の担い手不足は深刻な課題であり、林業就業者の維持対策は必要である。

⑤地場産品ブラッシュアップ事業

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
ふるさとみずなみ 応援寄附金の 寄附件数	11,500件	12,423件	魅力ある新たな産品の開発やブラッシュアップを実施することで、市内産業の活性化を図ります。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価 (シティブロ モーション 課)	A	◎	継続	本市の地場産品の監修を民間事業者へ委託し、魅力ある新たな産品の開発やブラッシュアップの実施する。R6年度は3年目の集大成として、これまで以上にメディアアプローチに力を入れる。また、これまで監修を受けた産品を販売する催事を名古屋で開催し、本市の魅力及び監修返礼品のPRにつなげる。	
1	A	◎	継続	1次評価と同様方針。	更に参加事業数増加に寄与する事が必要である事は明らかであるため、参画阻害要因の追求と究明が必要。
2	A	◎	継続	KPIから増加が期待される。今後、周知方法強化や新たな産品の開発にさらなる活性化が期待されると考える。	新たな産品の継続的発掘、あるいは開発が必要である。
3	A	◎	継続	人が欲しいと感じるものを創り出すにあたり、ビームスなどの力を借りることは大きな成果につながったと感じる	この事業に限らず、メディアへのアプローチ方法として、市職員がSNSを運用するなど、さまざまな活動をされていると思うが、例えばInstagram、google、などでPRをする際、インスタグラマーを起用したり、Googleで検索する際上位に挙がってくるようにするなど、お金はかかるが業者の力を借りた方がいいのではないと思う。同じ内容の記事を素人がSNS等で配信しても、影響力が違う。情報ツールの活用法が課題。
4	A	◎	継続	魅力ある地場産品の開発に寄与している事業で、ふるさと納税においても結果を出しており継続が望ましい。また、監修済みの産品の展開についても支援できる体制が出来ると良い。	ビームスのブランド力、企画力に頼るだけでなく、そこから得たノウハウで市独自の展開が起これると更に意義のある活動になると感じる。
5	A	◎	継続	もっとメディアアプローチに力を入れていけば、知名度も上がり、産品開発に時間をかけることもできるようになる。	ビームスが監修するだけでなく、ビームスの契約アスリートによる産品アプローチや、瑞浪市のプロモーションビデオへの出演(元契約選手も含む)、ビームスと瑞浪市の密接なつながりをアピールするのはいいか。
6	A	◎	継続	寄附金件数が大幅にアップし取り組みが効果的であったため継続。	関わった事業所もノウハウが得られるなど効果みられ、更なる拡大に期待したい。
7	A	◎	継続	ふるさと納税寄附金額及び寄附件数が増加し、積極的に取り組んでいる。参加事業者の自信につながっており、地場産業の活性化が期待できる。	地場産品のブランディングを行い、産品の価値を高めることで利益率が高まれば、参加事業者が増え、地場産業の活性化につながる。産品販売方法にも力を入れ、継続してほしい。
8	A	◎	継続	ビームスのネームバリューを上手に活用した、企業にとっても、瑞浪市にとっても、双方にメリットのある事業であるから。	次年度以降はビームス以外のブランドが手がけるとしても、ビームスが継続しても、いずれの場合も完成品がとて興味がある。
9	A	◎	継続	ふるさと寄附件数の増に加え、参加事業者のシビックプライドの醸成につながっている。	幅広い年齢層において知名度の高い企業の監修を得て産品開発を行ったことで、市内参加事業者に良い影響を与えている。多くの事業所に参加してもらい、新たな産品の開発に向け継続して事業実施してほしい。

⑥域学連携推進事業

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
域学連携 年間事業数	30件	43件	大学生や高校生など若者が地域の現場に入り、地域住民やまちづくり推進組織とともに、地域の課題解消やまちづくりに取り組み、地域の活性化に資する活動を支援します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価 (シティブロ モーション 課)	A	◎	継続	大学生や高校生など若者が地域の現場に入り、地域の課題解消やまちづくり、地域の活性化に資する活動は大変重要であり、若者のシビックプライドを醸成するため、更なる事業の実施を促す。また、「瑞浪市役所ミライ創るまい課」の活動支援も継続する。	
1	A	◎	継続	1次評価と同様方針。	「域学連携推進事業交付金」の周知徹底する情報発信が大切だと考える。
2	A	◎	継続	高校・大学への周知徹底によりさらなる活性化が期待される。本活動を対外的にアピールすることで他事業との相乗効果が期待されると考える。	周知方法および学生の参加モチベーション向上が図れるような施策を考えると良い。
3	A	◎	継続	いつも生徒がお世話になっている。行政・地域との交流・協働は子どもたちにとって大きな成長へつながっていると感じる。是非、今後もよろしく願います。	学生のみで活動させても、なかなか人が集まらないし、活動も難しい。いかに大人が間に入るかがカギ。高校生に対しては、「入試に有利」という言葉は中京高校で浸透してきている。域学連携推進事業交付金についても、大人が上手にリードしなくてはそこまでの事業を立ち上げるまでに至らないことが多い。
4	A	◎	継続	学生による地域活性化事業は、地域活性化の起因となるため継続が望ましい。	域学連携事業数をKPIとしているが、数だけでなく今後はその内容の充実度を考察する必要がある。
5	A	◎	継続	大学生や高校生など若者が地域の現場に入り、課題や問題点を共有できるのは大変重要なことである。更なる『瑞浪愛』に繋がるよう期待する。	学生グループが立ち上がらないような学校については、継続的に担当者が訪問し、就職時にはプラスになるような情報提供や、市役所への就職を希望する者にとっては有益である旨粘り強く訴える必要があるのではないか。
6	A	◎	継続	他市にはない取り組みで、若年層へのアプローチにつながっている。こういった活動を市民を巻き込んで行うことで、若者の地元離れについて意識づけることができる。	一部の学生だけでなく、学校全体で取り組める内容もあると良い。また、他市の学校に通う生徒(市民)も参加できるプログラムもあると良い。
7	A	◎	発展	大学生や高校生などの若者が地域課題に取り組み、地域活性化に資する活動をしている。シビックプライドの醸造により、卒業して地域を離れたとしても「関係人口」の増加に期待ができる。	若者の「地域に貢献したい心意気」を活かした様々な事業が展開されている。新しい事業だけでなく、事業を引き継いで発展していく事業を行い、卒業後も関わりを持ち続けられれば、地方創生への取り組みにも積極的に参加してくると思う。
8	A	◎	継続	瑞浪で育った子がそのまま市内に残ってくれる、そのきっかけになる活動(事業)と判断するため。	他の市でも同様の取組が開始された。メディアに大きく取上げられていた。瑞浪市も、もっとメディアに露出しはどうか？
9	A	◎	継続	若者世代が自分たちの地域の課題解消や活性化に向けて考え、活動ができる機会を確保することは大変重要であり、将来的に定着にもつながると考える。	若者のシビックプライド醸成に大きく寄与する事業であると思う。

⑦業務効率化事業

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
AI・RPA導入業務数	5件	10件	国が推進する「Society5.0」「スマート自治体」「マイナンバーカードの普及」を踏まえ、庁内業務について、少子高齢化による職員の減少や働き方改革に対応できるよう、AI(人工知能)・RPA(業務自動化)の導入による業務の効率化・省力化を図ります。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価 (企画政策課)	A	◎	発展	AI-OCR、RPAの適用業務の拡大と業務の効率化に資するDXの調査・研究を進める。併せて、これまでに導入したツールの効果や利用状況を検証し、次期情報化推進計画に向けてスクラップアンドビルドを行う。	
1	A	◎	発展	1次評価と同様方針。	業務効率化には充分活用意義はあるが、広く一般にはまだ利用普及してないのが実情と感ずるので、情報発信の必要がある。
2	A	◎	発展	DXによる業務効率化は最重要課題であるため、今後も積極的に推進していくべきと考える。また、同時にDX人材の育成も重要である。	業務のデジタル化は今後益々必要となってくると考えられるので、積極的に推進していただきたい。
3	A	◎	発展	今後さらに発展していくことになると思うが、研修など多く取り入れ、業務効率化により、浮いた時間をマンパワーでしかできないことに割いていってもらえたらいいと感じる。	効率化を図り、浮いた時間と人をどう活用するのかがカギ。楽になったね、で終わらないように新しいビジョン設定と同時進行で進めてもらいたい。
4	C	○	改善	AI、RPA等の導入については評価できるが、それがどれだけ利用され、どれだけ効率化につながったのかの検証が不足している。	デジタル化による効率化はシステムを導入し、どれだけ活用でき、どれだけ効率化でき、その時間を何に利用できたかまで検証することが重要である。
5	A	◎	発展	AI等を活用し効率化を図ることは、今や当たり前のことになってきており、さらに推進していく必要がある。	AIを活用していくことは必要であるが、担当職員の育成についてその進捗状況によっては、ハラスメントに繋がらないよう充分配慮することが必要であると思う。
6	A	◎	発展	導入件数が達成され、更なる発展を期待したい。業務効率化が職員の満足度向上にもつながる。	将来的に、ノウハウを市内の事業所へ展開するなど期待したい。
7	A	◎	発展	実績値も増加しており、これからもシステムの積極的利用により、業務の効率化・省力化、適用業務の拡大を期待する。	システムを利用できる職員を育成し、ツール適用の可能性のある業務、新たな業務にどの課も積極的に利用してほしい。ただし、ツール導入による行政サービスの低下を招くことがないようにすすめることが重要。
8	A	◎	発展	単なる継続ではなくより良い取組への発展が見込めるとのこと。是非実現してください。	業務の効率化と平行し、デジタル化に追いつけない職員や利用者のフォローもされていることと思う。
9	A	◎	発展	住民サービスの向上並びに職員の負担軽減、効率化につながる事業である。	システム導入の必要性は今後さらに高まる。システムを利用できる職員の育成についてのフォローも検討されたい。

⑧市制70周年記念事業

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
ここからも瑞浪市に住み続けたいと思う市民(20・30代)の割合	80.3%	53.6%	令和6年4月1日に瑞浪市制施行70周年を迎えることから、節目の年を市民とともに祝うため、令和5・6年度に市制70周年記念事業を実施します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価(企画政策課)	D	◎	継続	令和6年度は、新たな世界記録に挑戦する「みずなみ世界一プロジェクト」を開催し、市民の祝事意識を醸成する。	
1	D	○	継続	1次評価と同様方針。	広く一般に認められるイベントとし、広く情報発信していく。
2	D	○	継続	ある程度の効果は認められるが、継続性に疑問がある。今後瑞浪市として継続的に実施可能なイベントという観点から検討することも重要である。また、本イベントの対外的アピールを検討する必要がある。	単発的な事業にしか見えないので、継続的事业としての展開を期待する。
3	D	○	継続	目標の設定をもっと根本的なものに、どんな事業も悩んだ時の拠り所となるような柱を立てて、市の魅力を掘り出し、PRし、盛り上げていきたい。	瑞浪市民が瑞浪市を愛せるように、また、瑞浪市と言えば?「○○の町」と自他ともに認める魅力の確立がほしい。ゴルフの町、ホテルの町、バサラの町、焼物の町、色々あるが、市を推して市内外へ強く打ち出すもの。教育の町、市民税が安い、自然を生かした活動(グランピングやアスレチック、体験的な活動)70周年の節目を機会に、こういう魅力で市を盛り上げていきたいという強さを出してほしい。そこから人口減少に歯止めをかけ、人口増加へつなげ、税収を豊かにし、よりよいまちづくりにつながればと願う。
4	B	◎	継続	70周年記念事業を成功裡に終わるよう継続する。	KPI値の設定が困難であるが、魅力ある街づくりを継続していくことは必須の課題である。
5	D	◎	継続	70周年という節目のめでたい年であるという情報発信をしていくことが重要。	市制70周年ということで、70年前瑞浪市誕生と共に生まれてからずっと瑞浪市民の方を表彰する。あるいは70年間ずっと瑞浪市民である方に報奨金を渡すなど、長く瑞浪市民で良かった、と思えるような施策を展開してはいかがか。
6	C	◎	継続	目標指数が高すぎるため、達成は難しいと感じます。魅力的なイベントを開催することで、20代・30代への意識付けにつながる。	イベント開催は一時的な効果は上がると思うが、長いスパンで考えた取り組みも必要と感じる。
7	D	◎	継続	令和6年度の事業に市民が協力し、盛り上がるイベントとなることを期待する。	令和6年度の事業に参加される多くの方にSNS等に投稿してもらえるような工夫をして、魅力が発信できると良い。 20・30代に同窓会等の集まる機会を設けて瑞浪市の魅力を再認識して、瑞浪市に住み続けてもらいたい。
8	B	◎	継続	R6年度の効果を聞き評価をBとしました。	ギネス世界記録®への挑戦が人数制限があり残念。(とても個人的な意見です。)
9	C	◎	継続	多くの方がイベントに参加している。多くの市民・関係機関と一緒にプロジェクトを盛り上げてもらいたい。	市民目線に立ったイベントの検討がされ集客が得られていることから、多くの市民の記憶に残るイベントとなっていると思われる。イベントの企画を市民、関係機関と共に検討したことで、市民満足度にもつながっている。

⑨観光コンテンツ造成事業

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
コンテンツ造成数	5件	14件	観光誘客の促進及び観光消費額の拡大を目指し、市内観光での体験型コンテンツを造成し、全国に発信します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価 (商工観光課課)	A	◎	発展	事業者独自にコンテンツを開発したが、統一のコンセプトを創り上げ、面で広がるようコンテンツのブラッシュアップや新規開発を行い、継続して取り組む。また、事業者の自走に向けた研修会等も行っていく。新規事業者も含めたPR動画を作成し、認知度向上のために、より効果的なプロモーション活動を実施する。	
1	A	◎	継続	1次評価と同様方針。	「瑞浪」単体で取り組みだけでは無理があると感じる。そこで近隣の自治体と合体させ「周遊観光」を考えると「インバウンドの文脈」を利用して、外国人の誘客も一考ではないか？
2	A	◎	発展	KPI達成という観点および事業者のコンテンツ開発力アップによる地域貢献という観点から今後の発展が期待できる。	今後、事業者個々によるコンテンツ開発にどうつなげていくのが重要であるとともに、効率的な対外的PR手段の検討が必要である。
3	A	◎	発展	目標5件に対し、14件の実績はすばらしいと感じる。体験型コンテンツによって、より瑞浪を知ってもらうことは有効であり、今後も発展させていってほしいと思う。	14のコンテンツの参加者の分析が必要。参加人数、参加者の居住地を洗い出すことで、市民の割合が多いのであれば、市外の方にいかにPRしていくのか、魅力あるものにし、体験したいと思わせるのかの検討が必要。また、参加者にはどうやってこのイベントを知ったのかというアンケートも取り、今後のPR、告知の方法の検討材料にしていきたい。
4	A	◎	継続	事業者により14件の体験型コンテンツが開発されたのは、観光に対する意識が高いことの表れと感じる。また、それぞれコンテンツに独自性があり、大変興味を引く内容であった。	今後は新しいコンテンツの開発と同時に、すでに開発された体験型コンテンツの周知に注力し、より多くの方に体験していただき魅力をアピールしていく施策が必要である。
5	A	◎	発展	プロモーション動画の評判も良く、瑞浪市外の方からの注目度は高い。事業としては継続し更なる発展に向けて努めていただく。	動画の再生回数が74万回を超えたというのは大きいと思う。SNS等の活用も考える。
6	A	◎	発展	市内事業者を巻き込み、コンテンツが終了した後もノウハウが引き継がれることを考えると大きな成果があったと考えられる。体験者数をどのように増やしていくかも合わせた取り組みを今後期待したい。	目標の設定値が事業参加数よりも、体験者数にすべきではないのか。また、R4で大幅に目標達成できているのであれば、R5の目標値アップ対応は難しいか。
7	A	◎	発展	魅力的な複数の体験型コンテンツの造成により、観光客誘致の促進および観光消費額の拡大を継続的にを行い、また滞在時間の延長を促す取り組み、面で広げた取り組みを図る。	地域固有の魅力を磨き上げ、付加価値を高めたコンテンツ開発行う。特別な体験、食を組み合わせることや事業者と事業者を組み合わせ合わせたコンテンツ開発なども考え、面で広げた取り組みを実施する。
8					
9	A	◎	発展	事業者を巻き込みでの企画実施は大変良い取組。事業者同士のつながりが出来たことにより市内の事業者が連携し、さらに新しい企画に発展することを期待する。	事業者同士のつながりが出来たことにより市内の事業者が連携し、さらに新しい企画に発展することを期待する。

⑩ゴルフの町みずなみPR事業

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
ゴルフ場年間利用者数	60万人	55.7万人	本市には、ゴルフ場が13箇所もあるという魅力を活用し、オープンゴルフ大会を実施します。「ゴルフの町みずなみ」を市内外に向けてPRします。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価 (商工観光課課)	B	◎	継続	オープンゴルフ大会はR6年度で14回目となる。ゴルフ場およびゴルフの町みずなみ実行委員会と連携し、継続してPRを行う。また市内各小学校との連携、高齢者のフレイル予防としてスナッグゴルフの認知度向上など、今後も瑞浪市の産業観光としてゴルフを推進していく。	
1	B	◎	継続	1次評価と同様方針。	更なるゴルフの町みずなみのPR継続とスナッグゴルフの低学年増に定着および、中学生等へも参加、PRしてみたいか？
2	B	◎	継続	ゴルフの町「みずなみ」を目指す事業として評価できる。対外的PR次第では、利用者数増が期待できる。	各ゴルフ場の連携が必要不可欠である。ゴルフ人口の全体数位と比較することで、「みずなみ」ゴルフ利用者数の相対評価が可能である。
3	C	◎	継続・発展	ゴルフが好きな人のイベント、また裾野を広げるための活動にとどまらず、いかに人口増加につなげるかという視点がほしい。	静岡県でサッカーが有名なように、瑞浪市の小中学生は体育でゴルフをやるとか、ゴルフが好きな人が、そんな特典があるなら瑞浪に住みたいと思えるようなものがほしい。
4	B	◎	継続	ゴルフ場が13か所もあることが観光資源であると判断するならば、事業として継続すべきであるが、KPIがゴルフ場の利用客数という点では、各種施策が目標達成に向かっているかが疑問視される。	市民にゴルフをプレイしてもらい、健康促進、世代間を超えた融和を目的とした施策、市外からの観光資源としてのゴルフ場経営の施策、及びKPIを明確にし推進することが、好ましいと感じる。
5	B	◎	継続	市内各ゴルフ場も2巡目となるオープン大会で、継続してPRを行い、さらにゴルフの町瑞浪を市内外に浸透させていく。	オープンゴルフ大会は、通常のゴルフ大会等と同様の形式で催すのもいいが、市民だけの大会や、年代別、町内会対抗とか工夫を凝らした大会も開催すると良いと思う。
6	B	○	改善	ゴルフ大会の参加者がリピーターか新規かも含めてカウントすれば、より効果が感じ取れるのではないかと。であれば、目標60万人は、行政の取り組みよりも各ゴルフ場の企画頼みの部分が多いのではと感じる。規模感のあるPRコンテンツが必要ではないか。	市民にスナッグゴルフ等を通して地元の良さを実感してもらうことは大変良い取り組みだと思う。
7	B	◎	発展	ゴルフ場およびゴルフの町みずなみ実行委員会と連携して、PRとともにゴルフ場を活用したゴルフ大会の継続や新たなゴルフ場利用に関する取り組みを推進する。	ゴルフ場が13箇所もあるという魅力を活用し、小学生のころから本物のゴルフ、ゴルフ場に触れる機会を設けることで、大人になってからも友人や家族等とゴルフ場を訪れやすくなり、新たなゴルフ場利用者の拡大を図れると考える。
8					
9	B	◎	継続	県外からの参加者が大半であるオープンゴルフ大会において、瑞浪市の特産品を活用したPR方法は有効的。また、小学校や高齢者へのスナッグゴルフの普及活動は、ゴルフに興味をもってもらうことに効果的で市内のゴルフプレーヤーの増加につながる。	小学生や高齢者へのスナッグゴルフの普及活動は、市民の方がゴルフに興味をもつことで市内のゴルフプレーヤーの増加も期待され、市内ゴルフ場利用者の増加、市民のシビックプライドの醸成につながると思う。

⑩東濃圏広域観光PR事業

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
年間観光入込客数	150万人	119万人	県、東濃5市が連携し、東濃圏域の観光、産業、自然、歴史、文化などの魅力を国内外にPRします。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価 (商工観光課課)	D	◎	継続	市単独でのPR活動よりも広域で連携し、スケールメリットを生かしたPR活動を行っていくことは効果的であると考えるため、継続して実施する。	
1	D	◎	継続	1次評価と同様方針。	観光事業を活かした活動で、商工業にも波及する事業であり、今後も継続して協力する。
2	D	○	継続	広域連携が必要不可欠であるので、連携方法を考えることが重要である。各種イベントの効果をそれぞれ検証する必要がある。	広域連携が必要な案件なのでイベント企画立案が困難である。各地域の魅力の相乗効果が見込めるような施策を考える必要がある。
3	D	○	見直し	PRしたいものや場所などが明確でないため、瑞浪市の「これ」を推していきたいというものを特化すべき。周りとあわせて行うメリットもあると思うが、あ、それならうちの町にもあるよっていうような形では推したいものがボケるように感じる。	東美濃歴史街道協議会が主体であるならば、やはり中山道を中心とした鬼岩、大湫をいかにPRしていくか。特にインバウンドを狙って外国人観光客に対しフォローができるといいなと思う。
4	D	◎	継続	東濃地域への観光誘致は市単独で行えるものではなく、広域連合で共同事業として引き続きアピールしていく必要がある。	観光客を150万人誘致することが、本事業の本当の意義なのかを見直すことも必要ではないか。
5	D	◎	継続	東濃5市、可児市、御嵩町がいろんな意味で協力し合いPRしていくことが必要であり、まだまだ伸びしろはある。	確かに「東美濃」という名称は認知度が低い。しかしもっともっと露出を増やし、各市の観光大使をうまく活用し方向性を統一してPRできれば、徐々に浸透していくと思う。まずは東濃5市というより「東美濃6市1町」をどう表現するかを考えていただきたい。
6	D	◎	継続	広域での広報は相乗効果も期待できるので継続で良い。	漠然としたカウント方法であるため、効果があったかどうかは不明瞭な印象がある。的を絞った目標と結果を見ないと今後の問題点や効果があったかなど見いだせない気がする。
7	D	◎	継続	知名度向上に向け、東濃5市と連携し、継続的に魅力をPRしていく。	東美濃という認知度を高め、その中でも「瑞浪」という知名度向上に向け、他の事業とも連携しながら魅力を発信し、観光客増につなげてほしい。
8					
9	C	◎	継続	広域で連携したPR活動は、市単独で実施するよりも相乗効果も期待でき、瑞浪市への誘客に効果的であるため、今後も継続して実施したほうがいい。	事業効果については、新型コロナの影響も考慮して評価できると良いのではないかと。 (新型コロナが5類に移行して、入込客数の実績は上がっている。)

⑫瑞浪駅周辺再開発事業

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
防災対策などが整い、安心して快適な住環境が整ったまちだと思ふ市民の割合	60.0%	45.7%	中心市街地である瑞浪駅周辺において、「未来の子どもたちに渡せるまち」をコンセプトに、魅力あるまちづくりを行います。駅南地区での市街地再開発事業、駅北地区の複合公共施設整備等を実施します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価 (シテイプロジェクト推進課)	D	◎	継続	駅南地区では市街地再開発事業の実現に向け、組合員の機運醸成を図るとともに、民間企業と共に具体的な事業計画を検討する。また、駅北地区の複合公共施設については、官民連携(PPP/PFI)により、魅力ある施設の整備運営を目指す。併せて、意欲あるプレーヤーとともに、まちのにぎわいや魅力づくりを継続して行っていく。	
1	D	◎	継続	1次評価と同様方針。	駅北、駅南両開発においても、市民への丁寧な説明と事前準備により、粘り強く、将来の子供達に渡せるためにも、官民一体化して事業を前進させていくのがベストと思う。
2	D	◎	継続	他地域(日本国内)との開発事業における差がないので、「瑞浪」にしかない魅力を感じる事業にすべく関係各社と調整を図ると良い。	ゴルフの町「みずなみ」を感じる「瑞浪駅」になるように事業計画を策定すべきである。
3	D	◎	継続	駅の老朽化から、新しく綺麗になるだけでも嬉しいことだが、再開発して市の目玉とするならばもう一つ工夫が必要。ターゲットをどの世代、市民、市外の方、誰にとって、魅力ある施設にするのかを煮詰めてもらいたい。	近くの多治見駅も近年改装されたが、駅南の施設があまり充実せず、集客できていない様子が見られる。原因分析をしつつ、ただ綺麗になっただけではなく、市のシンボリックな地域になってくれたらと思う。地場産業である「焼物」などの販売など(産業振興センターにあるちゃわん屋、土岐市の道の駅志野・織部)のようなものもあると良いと思う。
4	D	◎	継続	駅前地区の再開発事業は、各市町村の重要課題であり、魅力ある街づくりのため活発な意見交換が今後も重要である。	民間事業者の画一的な提案だけに頼ることなく、瑞浪市として独自の案を真剣に練りに練ってコンサルにぶつけるなど、市全体で盛り上げていく大プロジェクトという認識が成功の鍵である。
5	D	◎	継続	駅南地区での市街地再開発事業とあわせ、駅北地区での複合公共施設整備事業は今後の瑞浪市の発展に大きな影響がある。粘り強く進めていく必要がある。	駅南地区の開発と駅北地区の開発は瑞浪市が今後発展していく上で、大きなキーポイントとなる事業であると思う。JR東海や日本郵政株式会社等との連携を図り進めていくとともに、地域住民との粘り強い対話が必要である。
6	D	◎	継続	指標と事業内容が合致していない。現在進行形の質問に対して、計画段階事業であるため、評価が難しい。	「移住定住の推進」に対しても有効になるよう取り組んでほしい。
7	D	◎	継続	計画段階の事業のため、効果が得られたかは不明だが市民が特に関心のある事業である。「未来の子どもたちに渡せるまち」として、防災対策などが整い、安心して快適な地区となる事業計画を検討する。	浸水ハザードエリアに対するリスク対策をハード面、ソフト面で考えた安心で安全な駅周辺として計画を進める必要がある。
8					
9	D	◎	継続	駅周辺の利便性を高め、魅力ある施設の整備運営を行うことで、駅利用者の増加や市内観光地等への誘客につながる。引き続き官民連携により幅広い世代のニーズを把握しながら進める必要がある。	駅周辺の利便性を高め、魅力ある施設の整備、運営を行うことで、市内外からの駅利用者の増加や市内観光地等への誘客につながると思う。

⑬道の駅整備事業

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
地域での交流や活動が活発に行われているまちだと思える市民の割合	43.5%	63.0%	国道19号瑞浪恵那道路の開通を好機と捉え、瑞浪市の「まちづくりの核」として、地域振興や地域活性化の役割を担う、新しい交流・観光拠点としての道の駅整備を進めます。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価 (シテイプロジェクト推進課)	D	◎	継続	リニア中央新幹線開業や国道19号瑞浪恵那道路の開通を好機と捉え、釜戸地区の地域課題解消、地域振興や地域活性化を担う「まちづくりの核」として、新たな交流、観光の拠点となる道の駅整備を進める。	
1	D	◎	継続	1次評価と同様方針。	好機であるが由に、ドライブイン、ハイウェイホテルの様な総合的に進めるのも一考と思う。
2	D	◎	継続	新幹線、道路開通は好機と考えられるが、「道の駅」事業への効果が不明である。観光客増につながるコンテンツが必要。	日本国内においては、「道の駅」の成功例、失敗例が数多く存在する。詳細調査を実施することで事業成功に導いてほしい。
3	C	◎	継続	会議の中でも意見が出ましたが、地産地消の産直市などできなめた瑞浪との共存、すみわけが必要かと感じる。	国道19号を名古屋方面から長野方面へむかうバイクのツーリング客をよく見かける。バイク客に立ち寄ってもらえるような工夫があると良いと感じる。
4	D	◎	継続	瑞浪恵那道路の開通ありきの事業であり、進捗状況を把握しつつ、特色ある道の駅づくりの計画を進捗させる。	「道の駅」の成功例を研鑽し、まちの特徴を活かした計画立案を熟考していく必要あり。
5	D	◎	継続	リニア中央新幹線、国道19号瑞浪恵那道路を含め地域活性化に大きく寄与する可能性を秘めている。	道の駅整備事業は「きなめた瑞浪」とは共通する部分と、釜戸地区の特色を生かす形で住み分けを図り、独自性を強める方向で考えていただきたい。
6	D	◎	継続	目標指数と、事業(取り組み)が合致していないため、実績値が低いのではないかと。事業については継続が良いと思う。	地方創生に効果的な事業であっても、評価判断である目標指数あっていないことが多々あり、見直しはできないのか。
7	D	◎	継続	道の駅による「地域での交流や活動が活発に行われているまち」として効果が得られるように整備を進める。	場所としては豪雨や台風時には影響を受けやすいため防災対策を整備し、地震時等の災害時の拠点機能、先を見据えた道の駅整備を進める。
8					
9	D	◎	継続	釜戸地区の新たな交流、観光の拠点となる。沢山の方が立ち寄りたいと思う「瑞浪の特性」を活かした設備の検討が必要。また、既存施設等とのバランスをみながら、連携、共存を図り整備を進める必要がある。	釜戸地区の新たな交流、観光の拠点となる。沢山の方が立ち寄りたいと思う「瑞浪の特性」を活かした設備の検討が必要。

⑭水道老朽施設更新事業

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
有効率	86.0%	89.5%	AI技術を活用した管路の老朽度評価を行い、更新計画を策定し、老朽化した水道管を効率的・効果的に更新します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価 (上下水道課)	D	○	見直し (改善)	継続的に更新工事を行うことにより、漏水等の無効水量を減らし、有効率向上に努める。	
1	D	○	見直し (改善)	1次評価と同様方針。	水道老朽施設に伴う、更新計画から更新工事について行政の関わりは必須であると考えているが、水道料金等は委託業務として一般的に公募、プロポーザル方式をとるのも一考と思う。
2	D	○	見直し (改善)	AIによる老朽化診断の精度検証が必要。ビックデータとして取り扱っているデータ種類、量が十分なのか検証が必要。	AIを利用することで社会インフラ老朽化判断、更改事業は必要不可欠であるが、膨大な時間がかかるので優先順位をつけることが重要。
3	B	◎	継続	ライフラインの確保は市民にとってかなり重要な案件であるため、よろしく願います。	今日本各地で大災害が起きており、被災された地域では必ず「水」の確保に苦慮している。時間はかかると思うが、コツコツとまた、永続的に取り組みをお願いする。
4	D	◎	継続	水道設備の老朽化は各市町村の大きな課題であるが、漏水してからの緊急対応は、業者負担も多大であり、計画的な更新が必要である。	広域な市全体の水道管を更新し続けるのには限界があり、居住促進地域などを限定し公表するなどの対策が必要な時期が到来していると感じる。
5	D	○	発展	AI技術導入により効率的に工事ができるようになった。今後の有効率向上を図る。	AI技術導入によりR6年度以降の更新工事はより効率的な工事ができ、更新費用も節約できるのではないかと大いに期待する。
6	D	○	改善	計画に基づいた更新を進めるとともに、有効率向上に努めてもらいたい。	特になし。
7	D	◎	見直し (改善)	AI技術を活用した管路の老朽度評価を行い、更新計画を策定し、アップデートしながら老朽化した水道管を効率的・効果的に更新工事を行う。	現データに他のデータ(例えば、想定最大震度、液状化危険度)を組み込むことで劣化診断精度を向上させ、適宜計画をアップデートしながら効率的・効果的に更新工事が行えると良い。
8					
9	D	◎	見直し (改善)	AI技術を活用した水道管管理は、漏水等への未然防止策として効果的であり、漏水対応等をする人員の負担軽減につながる。今後データ項目の見直しを行うなど、さらに精度を高めてほしい。	

⑮東濃地域医師確保奨学基金負担事業

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
医師確保数	5人	勤務医:1名、臨床研修医:2名	県、東濃5市が連携して医師確保に努めます。特に小児科や産婦人科の医師不足は顕著であるため、奨学金制度で医学生を支援します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価 (健康づくり課)	C	◎	継続	奨学金制度で継続支援を行い、地域に就任する医師を確保していく。	
1	C	◎	継続	1次評価と同様方針。	瑞浪・土岐医師会との連絡を密にし、情報を得て、地域に就任する医師を確保する事に努める。
2	B	◎	継続	地方における医師不足は日本全体としての課題である。本課題を解決する方法を提案していく事業として期待される。	支援額を含めた奨学金制度の改定が必要であると考えます。
3	C	◎	継続	奨学金制度はとても有効だと感じる。	東濃厚生病院が移転した後も含めて、長期的な視点で時間をかけて確保してもらいたい。
4	C	◎	継続	地域で活躍していただける医師を確保するためにも継続が必要。	若手医師の中には、自分自身の治療技術向上、専門知識習得を望む医師が多いため、当地域の医療機関が医師本人の自己研鑽ができる器があるかも定着するための課題の一つであると感じる。
5	C	◎	継続	奨学金制度で継続支援を行い、地域に就任する医師を確保していく。	今後の見込みとして、このままで本来の目的が達成できるのかどうか？ある意味心配である。増額も含め検討していただきたい。
6	C	◎	継続	継続で問題ないが、奨学金制度以外の対策も検討が必要だと感じる。	医療体制の充実、人口増減に大きく関わってくる問題でもあるため、継続的かつ有効的な制度の検討が必要と感じる。
7	C	◎	継続	医師確保の手段のひとつとして、この事業の効果を得るまでに長い年月を要するが継続していくことが今後の医師確保につながる。	奨学金制度を利用している奨学生や地域枠の医学生に対して、面談や交流会等を実施し、地域医療への関心を高める。
8					
9	C	◎	継続	少子高齢化の進行により医療ニーズは高まる一方で、医師不足は深刻な課題。本事業は、医師確保につなげる手段の一つとして有効的と思う。	奨学金を支払った後の貸付者に対するフォローアップも継続して行ってほしい。

⑩自治会加入促進事業

KPI指標	目標指標値	実績値	事業概要
自治会加入率	75.0%	65.0%	住民が自ら地域活動に積極的に参加してもらえるように、自治会加入を促進します。

	事業効果	事業評価	今後の方針	今後の方針の理由	総合戦略推進会議(意見)
1次評価 (市民協働課)	D	◎	継続	市民が協力してまちづくりを進めるうえで、自治会加入率は一つの指標となるため、引き続き周知に取り組む。	
1	D	◎	継続	1次評価と同様方針。	まちづくりを推進するならば、若年世帯への理解と「自治会」に入っていて良かったと思われる自治会体制も必要であると思われる、又、継続勧誘も必要と思慮される。
2	D	○	継続	現状、皆で住みよい街を作ろうという観点から自治会加入率は重要なパラメータである。広報PRの手段を検討しながら継続してほしい。	若者にとって「自治会」という言葉は死語(イメージ悪い)と考えられるので新たな名称をつくることも重要。また、運営の仕方も再検討必要。
3	D	○	見直し	自治会という考え方自体がもう古いのかもしれない。	家を新築する際にも、その地域の自治会の活動が多いのか、少ないのか、など気にする方も多い。基本的には住民にとって自治会は「負担」と捉える方の方が多いのではないかと思う。まったく新しい視点で考えてみるのも良いかと思う。
4	D	◎	継続	自治会の存在意義を再考し、普及活動を行う必要あり。	自治会加入の魅力、必要性が市民全体が実感できれば加入率向上につながるを感じる。
5	D	◎	継続	自治会加入率を上げるため、引き続き周知徹底していく。	ただ周知するだけでは加入率は上がらない。自治会加入のメリットを実際の役員経験者と共にSNS発信する方法を検討されたい。自治会役員を準公務員的な位置づけにすることも検討されたい。
6	D	◎	継続	転入時の加入拒否か、加入者の脱会なのかでアプローチは変わってくるため、予算をつけてそれぞれにあった活動を期待したい。	自治会活動の明瞭化がされていない。自治会がなくなった場合どうなるか、生活が自治会にどのように支えられているかなど、必要と感じていない人に届く媒体を考えて活動してみたいか。
7	D	◎	継続	住民自ら地域活動に積極的に参加してもらえる魅力的な地域づくりに取り組み、自治会に加入するメリットをしっかりと伝える。	災害時には地域住民同士で声掛けや協力し合うことが必要。地域の住民同士がお互いに関係性が築けていれば、助け合いによって命を守ったり、精神的に支え合ったりという共助が可能になる。災害時や防災、防犯の面からも、重要なことだと考える。
8					
9	D	◎	継続	自治会未加入者のみならず、脱退者も増加傾向と思われる。こういった状況のなか、地域の希薄化により高齢者等の孤立化が課題となっている。現状では、自治会加入への「損得」により未加入を選択する人が多い気がする。改善内容にあるように、専門家の協力を得て、自治会の今後のあり方等地域で検討する場を持つことが今後必要になってくると思う。	改善内容にあるように、専門家の方の協力を得るなどして、自治会の今後のあり方等を地域で検討する場を持つことが今後必要になってくると思う。

令和6年度瑞浪市デジタル田園都市国家構想総合戦略推進会議参加者

分野	選出区分	氏名	備考
「産」	瑞浪商工会議所	景山 英明	専務理事
「学」	中部大学	木村 秀明	工学部情報工学科 教授
	中京高等学校	松井 廉	-
「金」	瑞浪市金融協会	浅野 崇	幹事 (十六銀行 瑞浪支店支店長)
「労」	連合岐阜東濃地域協議会	堀尾 憲慈	事務局長
「言」	おりベネットワーク株式会社	佐伯 さほり	-
「土」	みずなみ防災会	中村 佐記子	女性部会長
公募	公募参加者	藤田 好恵	-
「官」	瑞浪市役所	梅村 やよい	健康福祉部 高齢福祉課長

瑞浪市デジタル田園都市国家構想総合戦略推進会議要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、まち・ひと・しごと創生法(平成26年法律第136号)第10条の規定に基づく瑞浪市デジタル田園都市国家構想総合戦略(以下「総合戦略」という。)に関し、専門的な見地及び市民の立場から幅広く意見又は助言を求めため、瑞浪市デジタル田園都市国家構想総合戦略推進会議(以下「推進会議」という。)を開催することに関し必要な事項を定めるものとする。

(意見等を求める事項)

第2条 市長が推進会議において、意見又は助言を求める事項は、次のとおりとする。

- (1) 総合戦略の進捗状況に関すること。
- (2) 総合戦略の見直しに関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、まち・ひと・しごと創生の施策に関すること。

(参加者)

第3条 推進会議の参加者は、次に掲げる者のうちから市長が依頼する。

- (1) 公共的団体の推薦を受けた者
- (2) 産業・経済関係団体の推薦を受けた者
- (3) 教育関係団体の推薦を受けた者
- (4) 公募による市民
- (5) その他市長が必要と認める者

2 前項の場合において、市長は、原則として同一の者に第5条に規定する開催期間継続して推進会議への参加を依頼するものとする。

(運営)

第4条 推進会議の参加者は、その互選により推進会議の会議(以下この条において「会議」という。)を進行する座長を定める。

2 市長は、必要があると認めるときは、会議に関係者の出席を求め、その意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(開催期間)

第5条 推進会議の開催期間は、1年間を目途とする。

(庶務)

第6条 推進会議の庶務は、企画政策課において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、推進会議に関し必要な事項は市長が別に定める。

附 則

この要綱は、告示の日から施行する。